

「ときを掬ぶ」cross border works 遊糸

一人ひとりの固有の時間の流れの中にある《 》を掬い上げてみる。

それはたぶん、観念と感覚の間にあり、螺旋的に重なり合うもの。

他者の時間や表現と重なることで新たに立ち現れる景色と出会い、物語の組み替えや位相の転移を引き起こす。

そして、それはきっと、あなたの中にある《 》と共振する。

cross border works ^{ゆう し} 遊糸

子蜘蛛が、円居（まどい）から旅立つ時、吐き出した糸に乗って空を飛び、たどり着いた場所で生活を始めるそうです。それは、近くの草むらや、木の枝であることが多いそうですが、中には高く上空に上がり、ハルカカナタまで飛ばされることもある、ということです。

遊糸とは、この風に乗って未知の世界へ旅をする糸の呼び名から来ています。まだ名もなく意味付けされていない、生み出されようとするものことに向けて、それぞれの眼差しが交差するとき、既成の価値に収まらない、新たな創造的なものが見えてきます。未知の世界へつなげ、広げるきっかけを生み出す基地、現代の商業化された大学では不可能と思われる、とんでもないことを次世代のために実現する作戦本部を目指します。そして、その本部を遊糸洞（ゆうしどう）とします。

活動歴

2016年4月 発足

7月～12月 トライアルイベント

「美術のボーダーライン—芸術・アート・デザイン—」、「写真とことば」、
「卒業制作プレゼンテーション」、「児玉靖枝 90's ⇔ 2010's」、「小清水
漸 公開制作」など、対談、作品展示、公開制作等開催

2017年7月～2018年2月 キックオフプログラム：「ひとはなぜつくるのか」連続講座開催中

遊糸 発起人：小清水 漸（彫刻家・代表）

上田 順平（やきもの作家）

児玉 靖枝（画家）

山口 尚（ゲームクリエイター）

吉川 直哉（写真家）

吉村 誠（メディアプロデューサー）

会期：2017年9月19日（火）～10月1日（日）

11：00～19：00（最終日～18：00）、月曜日休廊

会場：アートスペース虹 京都市東山区神宮道三条入東町 247-2

ゲスト・アーティスト：北川 淳一（テクノロジーアーティスト）

◆関連イベント

トークイベント：「ときを掬ぶ」遊糸メンバーによるトークセッション

日時：9月26日火曜日 19：00～20：30

会場：良恩寺 京都市東山区粟田口鍛冶町7

同時開催展：「ときを掬ぶ //遊糸洞」

会期：9月29日（金）、30日（土）、10月6日（金）、7日（土）、8日（日）

17：00～20：00

会場：遊糸洞 大阪市北区堂島3-2-1 9松岡ビル1F

出品者略歴

小清水漸 (KOSHIMIZU Susumu)

1944年愛媛県宇和島市生まれ。1966年から1970年まで多摩美術大学彫刻科在籍。現在は、京都、大阪、神戸を拠点に活動しています。1960年代後半から木、石、紙、土、水、鉄などを用い、物質と人の関わりを重視した作品を制作してきました。1970年前後の美術動向「もの派」の中心的アーティストであり、ベネチアやサンパウロのビエンナーレを始め国内外の展覧会で活躍しています。主な個展に「小清水漸展 彫刻・現代・風土」（岐阜県美術館、愛媛県立美術館、1992年）、「小清水漸 石の木の水の色」（久万美術館、2005年）、「雪のひま」（東京画廊、2010年）など。主な受賞に、1981年平櫛田中賞、1988年芸術選奨文部大臣新人賞、2004年紫綬褒章、2007年京都市文化功労者、など。主なコレクション：国立国際美術館、東京国立近代美術館、京都市美術館、東京都現代美術館、豊田市美術館、TATE MODERN（ロンドン）、など。京都市立芸術大学名誉教授。

上田順平 (UEDA Jumpei)

1978年大阪府堺市生まれ。2003年大阪芸術大学美術学部工芸学科陶芸コース卒業。

2005年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科陶磁器専攻修了。2010年五島記念文化財団研修員としてメキシコに滞在。

2000年代より焼き物を用い、やきものが持つ文化や歴史、「うつわ」という概念や物質性、機能と用、文明と環境についての問いから、その関係性に着目した作品を制作しています。主な個展に「コウキウスキ」 「チャンポン」（ギャラリー16、2004年、2006年）、「パチモン」 「カンゲン」（イムラアートギャラリー、2008年、2010年） 「リン／テン」（京セラ美術館、2017年）など。国内を始め、メキシコ、アメリカにて展覧会に参加しています。宝塚大学講師。

児玉 靖枝 (KODAMA, Yasue)

1961年生まれ。1986年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。1986年アートスペース虹（京都）で初個展を開催以降、京阪神や東京の画廊での個展を中心に発表。日常の中で感受する非日常的光景をモチーフとし、具象のなかの抽象性を際立たせることで存在の気配を喚起させる絵画を描きながら〈まなざし〉を問う試みを続けている。主なグループ展は、1995年「視ることのアレゴリー1995」セゾン美術館（東京）、2002年「未来予想図—私の人生☆劇場」兵庫県立美術館、2010年「プライマリー・フィールド：絵画の現在—七つの場との対話」神奈川県立近代美術館葉山、2015年「ほ

っこり美術館」横須賀美術館。

山口 尚 (YAMAGUCHI, Takashi)

1967 年尼崎市生まれ。大阪学院大学卒業。外資系家庭用ゲーム会社にて家庭用ゲームのプロデューサーを経て、ドワンゴでは、日本で先駆けて、PC 向け MMORPG の開発およびプロデュースを担当。その後、多くのゲーム開発を行いつつ、宝塚造形芸術大学(現宝塚大学)教授として教育に携わり、芸術への思いを強く持ち、映像作品を発表するようになる。株式会社シェイクハンズ代表 株式会社エンジンズプロデューサー。

吉川 直哉 (YOSHIKAWA, Naoya)

1961 年生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業、大学院芸術文化研究科前期修了。文化庁派遣芸術家在外研修/サウスハンプトン大学客員研究員。チビテララニエリセンター (イタリア) アーティスト・イン・レジデンス、秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス (山口) 選考。テグフォトビエンナーレ 2016 芸術監督 (韓国)。大理国際写真祭 (中国)、カサブランカ・ビエンナーレ (モロッコ) 他、国内外でコンセプチュアルな写真を発表。

吉村 誠 (YOSHIMURA, Makoto)

1950 年山口県生まれ。東京大学文学部社会学科卒業後、朝日放送に入社。主な番組担当に「シャボン玉プレゼント」、「新婚さん！いらっしやい」、「晴れ時々たかじん」、「ワイド ABCDE へす」や「M-1 グランプリ」の創設プロデューサー。多くの映画製作・宣伝にも携わり、自身プロデュースの代表作は『血と骨』(2004 年)、『秋深き』(2008 年)。宝塚造形芸術大学教授を経て、現在は同志社女子大学等で講義。近著に『お笑い芸人の言語学〜テレビから読み解く「ことば」の空間』。

北川 淳一 (KITAGAWA, Junichi)

1986 年大阪府茨木市生まれ。宝塚大学大学院メディア造形研究科メディア・コンテンツ専攻修了。ゲーム、プロジェクションマッピング、バーチャルリアリティ (VR)、プロモーションビデオなどのデジタル技術を駆使した分野でのアート作品や商業作品の制作活動を行っている。主な作品として「川西市 60 周年記念プロジェクションマッピング」「第 6 回 全国工場夜景サミット OP 映像」「human note with friends『未来へ』PV」「ATC ロボットストリート サイネージ映像」など。作家活動としては、丹波篠山・まちなみアートフェスティバル(2015 年、2016 年)にて、山口尚と共に「食卓プロジェクションマッピング」(2015 年)と「葛藤」(2016 年)を制作し展示を行う。宝塚大学助教。